

## イタリア短期交換留学生受け入れ報告

林 文明・藤田英樹・高瀬利恵子・古川竜治・清水勝昭

### 1. はじめに

本学では、2000年にイタリア国立フェラーリ工業専門学校（I. P. S. I. A. “A. Ferrari”）と教育交流協定を締結し、学生や教員の相互訪問をはじめとする多彩な交流活動を続けている。そのひとつとして、イタリアからの学生を本学が短期交換留学生として2004年6月に第1回受け入れを行って以来、毎年、イタリア人短期留学生を受け入れてきた。

本稿では、2007年7月に行われた第4回イタリア短期交換留学生受け入れについて報告する。

### 2. 経緯

イタリア国立フェラーリ工業専門学校（以下フェラーリ校という）とは2002年4月に交換留学に関する協定が結ばれ、2006年4月には協定を継続するための手続きが本学で交わされた。

2007年度については、それまでの担当である国際交流課（学生部所属）から国際交流室（学長直属）に変更になった。2007年4月6日、本学入学式に出席するため来日中のフェラーリ校ニコ（Nico Danieli）校長ならびに同校海外プロジェクトコーディネーターのエミリア（Emilia Paderno）女史と会談し、そこで、短期留学に関する実務的な調整を行った。フェラーリ校からは、短期留学生の人数を3名から4名に増やして欲しいという要望があったが、本学側の予算上の都合で当初の予定通り3名の受け入れになった。学生の滞在場所については、第2敬愛寮に、実務研修の作業服については、留学生が各自持参することとなった。また、イタリア側から新しい要望として、日本の一般家庭でのホームステイ、トヨタ自動車の工場見学、京都異文化体験が提案された。本学側は、これらの要望を可能な限り受け入れることとし、さらに、今回は地域交流推進の観点から、坂祝町長への表敬訪問、坂祝町内にある自動車製造工場パジェロ製造の見学、また、初めての試みとして地元坂祝小学校での児童との交流も計画に盛り込んだ。計画の立案にあたっては、従来の日程に加え、新しい企画の実行が可能かどうか検討を重ね、4月下旬に教授会で日程表を報告した。5月にはトヨタ自動車の工場見学の予約、パジェロ製造の見学依頼及び調整、坂祝町町長との表敬訪問日時の調整、坂祝小学校との交流会を実施のため、坂祝町教育委員会への打診及び小学校との調整をおこなった。来日後最初の教授会となった7月4日に来訪者の紹介をした。7月25日の教授会では短期留学終了にあたり、協力各部署へのお礼と総括報告を

行った。

### 3. 研修日程と実施概要

短期留学受け入れは、フェラーリ校の学生3名、引率教員1名、合計4名が表1の行程表に示すように2007年7月3日（火）～22日（日）の20日間にわたり日本に滞在した。7月3日の入国迎え入れは航空便が遅れ、本学到着も1時間ほど遅れた。日本到着時の短期留学生の様子を写真1に示す。

表1 行程表

日数	月/日・曜日	研 修 内 容	担当部署	備考	
来日週	1	7月3日（火）	入国日（中部国際空港 8:55到着）、寮説明、学長挨拶、学内見学、ブリーフィング	学生部	通訳
	2	4日（水）	午前：研修用品購入 昼：歓迎会	学生部	通訳
	3	5日（木）	午前：日本語レッスン 午後：地域交流（小学校、役場訪問）	交流室	
	4	6日（金）	午前：本部訪問・コーンズ 午後：航空専門学校訪問	学生部	
	5	7日（土）	休 日		
	6	8日（日）			
第二週	7	9日（月）	①実習：車体関係（板金、塗装等）	専攻科	ホームステイ
	8	10日（火）	トヨタ会館、トヨタ工場、トヨタ博物館見学	交流室	
	9	11日（水）	②実習：エンジン分解	専攻科	
	10	12日（木）	1限：日本語レッスン 2・3限：学生交流（イタリア語授業）	別科	
	11	13日（金）	③実習：ガソリン自動車整備	専攻科	
	12	14日（土）	留学生行事に合流（終日）	交流室	
	13	15日（日）	休 日		
第三週	14	16日（月）	日本文化探訪（京都）	交流室	通訳
	15	17日（火）	日本文化探訪（伊勢・安土桃山文化村）	交流室	
	16	18日（水）	企業研修：車検場見学	専攻科	
	17	19日（木）	午前：パジェロ見学 午後：帰国準備 夜：修了式・お別れ会	見学：交流室 式：教務会 会：学生部・専攻科	
	18	20日（金）	日本文化探訪（東京）	本部	
	19	21日（土）			
	20	22日（日）	帰国日（中部国際空港より11:00出発）	本部	

7月5日には地域交流ということで、坂祝小学校の6年生児童と「日本の遊び、イタリアの遊び」をテーマに交流した。その様子を写真2に示す。また、それに備えて、事前に簡単な挨拶ができるよう日本語レッスンをおこなった。その後、坂祝町役場を表敬訪問した。その模様は中日新聞（中濃版）に掲載された。掲載された記事を写真3に示す。



写真1



写真2



写真3

学内実習は9日、11日、13日の計3日間で、車体整備実習(写真4)、エンジン実習(写真5)、レーシングカーのエンジン実習が行われた。



写真4



写真5

学外研修は、中日本航空専門学校、岐阜医療科学大学、神野学園本部を訪問し、自動車関連で、フェラーリ車販売店（コーンズ）、トヨタ自動車工場、岐阜陸運局車検場、パジェロ製造（写真6）の見学、日本の文化探訪で京都（清水寺・金閣寺（写真7）・竜安寺）、伊勢・安土桃山文化村（写真8）、東京（秋葉原・浅草・お台場・六本木・原宿）の各地を見学した。



写真6

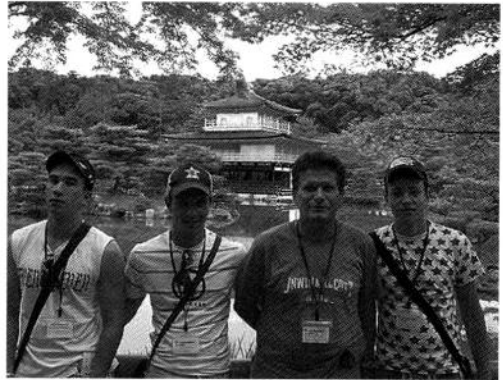


写真7



写真8



写真9

また、本学留学生の学外授業に同行し、郡上市「牧歌の里」で本学の学生と親交を深めた。

イタリア側の強い要望により企画したホームステイ（写真9）は、11日～13日まで、教職員の家庭に3名（学生2名・引率者1名）、近隣の住民宅に1名（学生）、2泊3日の滞在をした。

来日直後、学生側から引率者を通じ、鶴飼見物、大相撲観戦、本学の学生とのサッカー試合の3つの要望が出されていた。鶴飼見物は、フリータイムを利用し自費により長良川で見物した。大相撲については、チケットが入手できず、実現できなかった。サッカーについては天候が悪く適当な日程が取れなかったため、体育館で放課後、有志の学生とフットサルをするにとどまった。

修了式は19日、管理棟2階会議室にて実施し、その後、お別れ会を美濃加茂市内の日本料理店で実施した。参加者数は、修了式、お別れ会ともにイタリア側を含め16名。修了式においては修了証書と記念品を授与した。

7月22日の出国は予定の航空便が欠航し、急遽別の航空便に変更し、約5時間遅れで帰国した。

#### 4. 今後の課題

イタリア短期留学生および関連各所からの聞き取り調査等を基に、今回の短期留学を総括すると、地域交流として初めて実施した坂祝小学校との交流は、小学校側も短期留学生側も非常に満足度が高かったため、今後も継続して行っていくべきである。また、同様に初めての試みとなったホームステイもとても満足されたようである。これはフェラーリ校側からの強い希望で企画することになったわけであるが、本学としても多くのノウハウを得る結果となり、今後とも継続して行っていくべきである。学内実習では、車体整備実習、エンジン実習、レーシングカーのエンジン実習が行われ満足されたが、ロータリーエンジン実習があるとさらによかったという感想があった。今後は実習内容に追加できるとよい。日本語レッスンも、地域交流やホームステイ等で実際に使用する場面があるので、学習者の励みになり効果が高い。これも継続して行っていくべきである。学外見学も殆ど満足されたので、要望を考慮しながら企画していくとよい。宿泊場所は第2敬愛寮の1Fの4室を使用した。基本的な生活備品と布団類（リース）を準備。光熱水費は本学が負担した。本学との行き来は自転車を用意した。通学用バスの無料利用の案内もしたが、利用しなかった。朝食は第2敬愛寮近くの喫茶店を指定し、代金は後日本学がまとめて支払った。味、量とも概ね満足していた。夕食は敬愛寮の食堂業者を指定し、代金は後日本学がまとめて支払った。味の面で不満があり、欠食があったので、一考を要する。研修の最初と途中で、意見を聞く機会を設けるとよいだろう。最後になるが、「交換留学」をめぐる両校の経費および人的負担の不均衡について、指摘されることがほとんどない。今後、真の対等な「交換留学」が実現することが望まれる。

以下、次年度へむけての課題。

- ・学生とのサッカー試合は最初から計画するのがよい。
- ・事前に要望されていた「京都見学」「トヨタ工場見学」「ホームステイ」は満足度が高かったため、次年度も継続するのがよい。
- ・東京への旅行はやめてもよいのではないか。
- ・実習受け入れ部署（専攻科等）への調整時に学生の要望をしっかりと伝えるようにする。
- ・最初と途中で、意見・要望を聞く機会を設ける。

#### 5. ま と め

2007年度イタリア短期留学生受け入れは、4月上旬にイタリア側の校長ならびに担当者との間で実

務的なすりあわせができ、早い段階で計画が立てられたことで、いくつかの新しい試みにチャレンジすることができた。なかでもホームステイが実施できたことは有意義であった。イタリア人留学生の方々にかなり満足してもらえたと思う。地元地域の人々や本学の学生、教職員にもよい価値ある交流となったに違いない。今後もこのように早い段階で準備にとりかかり、余裕をもって事業の改善をしていくことができるとよい。

最後に、この短期交換留学を実施するにあたり多大な協力を頂いた地元地域の諸氏、ホームステイでお世話になったホストファミリーの各位、協力各部署、学園本部の蜂須賀氏に、この場を借り深く感謝を表したい。